



### ごあいさつ



2025年の日本の平均気温は平年を1度以上上回り、2026年の春も平年より高温となることが予想されています。このような自然環境の変化と同様に、2025年度は医療を取り巻く環境においても大きな変化のあった1年となりました。物価や人件費の上昇により、多くの医療機関が厳しい経営状況に直面しており、令和8年度診療報酬改定においても、こうした課題への対応が重要なテーマとして掲げられています。その中でも、救急医療分野は重点項目の一つとされています。本稿では、そのような状況を踏まえ、当センターにおける小児救急医療への取り組みについてご紹介いたします。

大阪母子医療センターは、大阪府の小児医療の中核を担う医療機関としての指定に加え、2018年に小児救命救急センターの指定を受けて以降、二次および三次救急医療機関として24時間365日の受け入れ体制を整備し、地域の小児医療を支えてまいりました。

当センターが位置する泉州地域では、1996年より小児救急輪番制が導入され、複数の医療機関が連携し役割分担を行うことで、小児救急医療の継続が図られています。しかし近年は、医療従事者不足などにより、その持続可能性が課題となっています。このような状況の中、当センターは2022年より本輪番制に部分的に参加し、さらに2024年には救急・総合診療科を新設することで、地域の小児救急医療への関与を一層強化してまいりました。

これまで大阪母子医療センターは、高度で専門的な小児医療を担う施設として認識されることが多く、特定の専門疾患に特化した医療機関という印象をお持ちの先生や医療従事者の方々も少なくないかと存じます。しかし現在では、より幅広い小児疾患に対応できる体制を整えております。例えば整形外科領域においても、従来は積極的に対応してこなかった救急外傷、すなわち小児骨折などについても積極的に受け入れております。このような取り組みを通じて、地域の小児医療により一層貢献していきたいと考えております。

小児救急への積極的な関与は、その一環です。今後も泉州地域を中心に、大阪府全体の小児医療の質向上に寄与できるよう努めてまいります。地域の医療機関の先生方、医療従事者の皆様におかれましては、どのような内容でも構いませんので、ぜひ当センターへご相談いただければ幸いです。

なお、地域医療連携の体制につきましては、未だ十分とは言えない点もあるかと存じます。皆様からのご意見・ご指摘を真摯に受け止め、さらなる改善に努めてまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(患者支援センター長 樋口 周久)



## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

### 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

## 小児炎症性腸疾患（IBD）のトピックス



炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease：IBD）は、腸に慢性的な炎症が起こる病気で、腹痛や下痢、血便などさまざまな消化器症状を引き起こします。代表的な病気として、潰瘍性大腸炎とクローン病があります。

IBD は欧米諸国で多い病気として知られていましたが、日本でも患者数は年々増加しています。現在、日本では潰瘍性大腸炎の患者さんは約31.7万人、クローン病は約9.6万人と推定されており、8年間で約1.4倍に増加したと報告されています。

また、小児のIBD患者さんも成人と同様に増加しており、当院の消化器・内分泌科でも多くの患者さんをご紹介いただいています。

IBDの治療は、以前は5-ASA製剤、ステロイド、免疫調節薬などが中心でした。しかし、抗TNF- $\alpha$ 抗体製剤であるインフリキシマブの登場により、治療の選択肢は大きく広がりました。さらに近年では、主に成人を対象として、毎年のように新しい作用機序を持つ内服薬や注射薬が開発されています。

一方で、小児のIBD治療では、他の多くの小児疾患と同様に、小児に保険適用されている薬剤がまだ限られているのが現状です。この状況を改善するため、当科では国際的な治験にも参加し、小児のIBD患者さんにも新しい治療薬が使用できるよう取り組んでいます。

（消化器・内分泌科 萩原 真一郎）

## 患者支援センター 在宅医療支援部門の紹介



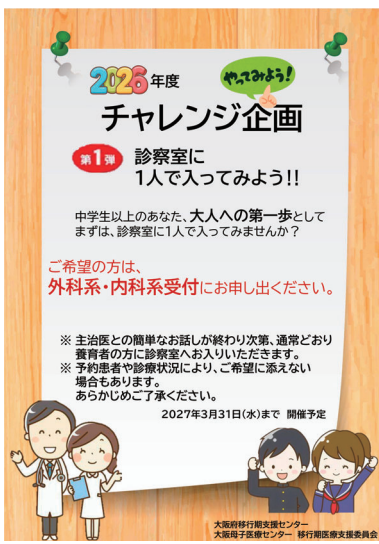
医療的ケアを必要とする患者さんは年々増加傾向にあり、当センターには約800名（在宅自己注射を除く）おられます。患者支援センター在宅医療支援部門では、医療的ケアを必要とする患者さんの入院後から退院に向けて、病棟スタッフや多職種の方々と連携しながら支援や調整を行っています。特に在宅人工呼吸器を必要とする患者さんは地域との連携を目的とした地域連携パスを使って支援を行っています。

外来通院されている患者さんへは、療養上の相談や支援を行っており、医療的ケアに必要な衛生材料等の在宅医療物品をお渡ししています。在宅医療物品は、経管栄養や気管切開等、療養毎で計8療養183品目あります。事前に療養毎のセットを組み、患者さんの来院時に必要な物品の数や種類などの調整を行っていましたが、手作業が多く業務が煩雑になっていました。そのため、2025年12月より在宅医療物品供給システムの運用を開始しました。このシステムは、電子カルテで物品をオーダーし、カルテ情報を介してSPD（物品管理部門）に請求します。SPDでは、各医療物品に電子タグを取り付け、材料の取り揃え作業を集約しました。検品についても、これまでの目視から電子タグでの一括スキャンが可能となりました。

このシステムを開始したことで、物品管理がSPDでの一括管理になったこと、材料の過不足や間違いがなくなったことなど、業務時間の削減や業務品質の向上に繋がっています。今後、患者別に引き渡し履歴を蓄積し、収支改善に二次利用ができるようにしていく予定です。そして、将来的には、患者さん宅へ在宅医療物品の配送も念頭に、更なる利便性の向上に取り組んでいきたいと考えています。

（患者支援センター 江口 奈美）





小児期発症の慢性疾患を有する子どもが見通しをもって自分らしく生活していくためには、成長に合わせた病気の正しい理解や養育者が担ってきた療養行動の管理を子どもへと移行していくことが必要です。

今回、中学生以上の患者さんを対象にした『チャレンジ企画 一人で診察室に入ってみよう!!』を企画しました。

子どもが主治医と直接話すことは、体調のことだけでなく、自分の思いや不安などを自分自身の言葉で伝える機会となり、大人への大きな一歩となります。

また、この企画を通して養育者や我々医療者にとっても子どもの自律・自立を応援する意識づけとなることを期待しています。

(小児看護専門看護師 樋口 伊佐子)

## 手術室 IV ナースが活躍しています



当院手術室では、2025年7月より超音波ガイド下での静脈路 (IV) 確保を実施できる「手術室 IV ナース」の院内認定制度を導入しています。小児患者は血管が細く IV 確保が難しいことから、これまで医師が実施していました。しかし、看護師が IV 確保を行うことで麻酔導入の円滑化につながると考え開始しました。院内認定を得るには、麻酔科医師による講義、24項目の動画研修、麻酔科医師指導の下、シミュレーションおよび看護師が小児患者に対して最低 30 例の穿刺を実施し技術を習得する必要があります。

現在は 9 名の「手術室 IV ナース」が院内認定され、さらに手術室 IV ナースの育成を進めています。今後もチーム医療の一員として、安全で確実な周術期管理に貢献していきます。



(手術室看護師 岡平 のあ 田中大)

## 研修会を開催しました

### ● 大阪府妊産婦こころネット

2026年1月31日

1部では大阪府の母子保健における妊産婦メンタルヘルスケアと大阪府妊産婦こころネットの機関支援の取り組みについての報告がありました。2部は医療法人学術会木村病院 渡邊博幸院長をお招きして、テーマ「母子 - 精神保健医療連携の現状と展望」について講演していただきました。86名の参加がありました。特に参考となったこととして、妊産婦さんやご家族だけでなく、支援者さんへの相談窓口があることを知り、利用幅が広がりありがたい。妊産婦メンタルヘルス支援の取り組みは、地域との関係性が大事。連携の大切さを再確認できた。という声がありました。妊産婦こころネットでは、今後よりよい連携のもと、地域支援の体制整備に取り組んでいきます。



### ● 大阪府医療的ケア児支援センター

2026年2月12日

ドーンセンターにて、令和7年度第2回医療的ケア児支援のための連携会議を実施いたしました。出席者は165名。今年度の会議のテーマである「(医療的ケア児の)全数把握」に沿って、あいち医療的ケア児支援センターのセンター長である丸山幸一先生をお迎えし、愛知県の医療的ケア児支援の現状をお話いただきました。他にも、四條畷市と泉佐野市の方からそれぞれの市の取り組みについてご報告いただき、好事例として出席者の方々と学びを共有することができました。





## 地域連携懇話会を開催しました



### テーマ 「重症心身障がい子ども達とともにデイサービスの現場では」

2026年2月27日に第18回地域連携懇話会を開催しました。当日は大阪南部地域の重症心身障がい児対応の21事業所から27名の方にご参加いただきました。重症心身型放課後等デイサービスアウラの田中由紀さんと重心連絡会きずなの藤田里美さんに現状と課題を報告していただき、その後、当センターの医師・看護師・ケースワーカーを交えて意見交換を行いました。デイサービスと病院との情報連携の方法を考えるなど、医療的ケア等を必要とするお子さん・ご家族の地域生活を支援し今後の連携に繋がる有意義な会となりました。



COFFEE DAY

NPO 法人プロジェクトサンタ様がコーヒーショップヤナギモトスタンド様と提携し、病院で付き添いをしているご家族と病院で働く職員にむけた「COFFEE DAY」を開催されました。2025年度は5月、7月、11月、2月の4回実施されました。

病棟から離れた場所に会場を設け、ご家族にはコーヒーやお菓子が無料で提供されました。また、職員は購入することでコーヒーショップの継続経費としてご家族を応援しています。

コーヒーの香りに誘われて、たくさんのご家族や職員がコーヒーショップを訪れ、販売の方の笑顔と美味しいコーヒーに癒されながら、ほっとするひと時を過ごすことができました。

Follow Me !  
Instagram

公式Instagramをはじめました！

2025年8月より当院の公式 Instagram アカウントを開いたしました。

院内で開催しているイベントの様子や、当院でのさまざまな取り組み、日々の活動の様子などを写真や動画を通して発信しております。

院内の雰囲気や取り組みをより身近に感じていただける内容を心がけております。関係医療機関の皆さまにも当院の活動を知っていただく機会になれば幸いです。ぜひフォローのうえ、投稿をご覧ください。



**診療時間** 平日 9:00 ~ 17:30  
**予約受付** 平日 9:00 ~ 19:00

**医療者対象  
ホットライン**

※24時間受付直通

PICU  
0725-56-1070

小児がん・白血病  
0725-57-7677

心疾患  
0725-56-3833

地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪母子医療センター 患者支援センター  
〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL : 0725-56-9890 (直通)  
FAX : 0725-56-5605

【その他】 TEL : 0725-55-3113 (直通)  
FAX : 0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail : chiren@wch.opho.jp

この広報誌に関するご意見・ご要望は、患者支援センターにお寄せください